

学生の前で練習するオクサナ選手(左)とニーナ選手＝美浜町奥田の日本福祉大で



パラバド・ウクライナ代表

紛争離れ 試合できる喜び

日本福祉大で練習

「Japanパラバドミントン国際大会」(11月5～9日、静岡市)に出場するウクライナ代表の3選手とコーチ1人が21、22日、美浜町奥田の日本福祉大美浜キャンパスで練習した。

左足に義足をつけるオクサナ・コジナ選手(31)、低身長の子ナ・コズロフ選手(27)、アナスタシア・ザバリー選手(28)、コーチのセルヒー・チェメリンスキーさん(65)。ウクライナでは紛争が続く、満足のいく練習環境が整わない。自宅にいても爆弾がいつ落ちるのか分からず、落ち着いて寝られないという。22日はスポーツ科学部の授業に参加。学生とトリイをしたり、世界レベルの技術を披露したりした。学生は義足をつける選手の足の使い方や、低身長の選手が全身を使ってラケットを振る様子に注目していた。

3年の末光唯楓さんは「選手たちは技術が高く、シャトルを打つ音が違った。障害があると感じなかった」、オクサナさんは「日本は環境が良く、毎日が幸せ。強さに関係なく学生と試合ができてうれしい」と、それぞれ話した。

(内山陽貴)